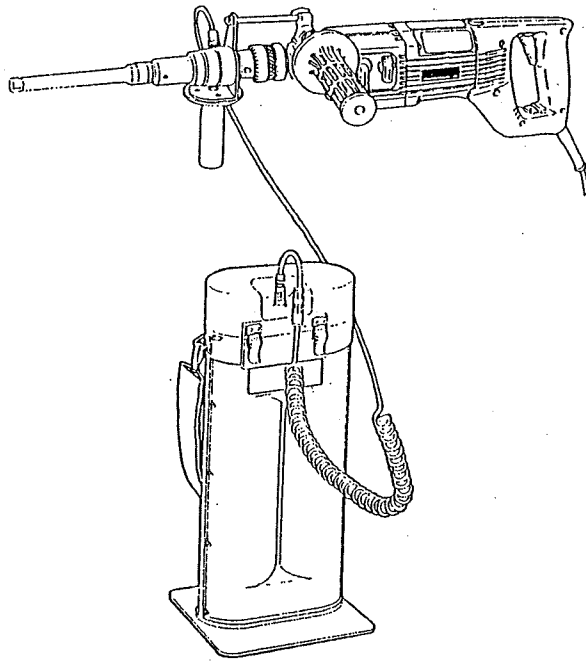


# SUPER DRILL

スーパードリル  
モデル OJ-2

## 取扱説明書



このたびはスーパードリル (OJ-2) をお買い  
上げいただきまことにありがとうございます。

ご使用に先立ち、この取扱説明書をよくお読みいただき本機の性能を十分  
ご理解の上で、適切なお取扱いをお願いいたします。

なお、この取扱説明書はお手元に大切に保管してください。

# 安 全 上 の ご 注 意

- 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ご使用前にこの「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

- (1) ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。また、ドリルにはドリル単体の取扱説明書が添付されておりますので、併せてお読みください。
- (2) 作業に適した服装で作業してください。
  - ・機械の回転部に巻き込まれないよう袖口の開いたもの・ネクタイなどは身につけないでください。
  - ・作業中は保護メガネをご使用ください。また、作業環境により、安全靴、保安帽、マスクなどもご使用ください。
- (3) 作業場所の周囲状況を考慮してください。
  - ・ガソリン、塗料、ガスなどの引火性のある危険物の近くでは、使用しないでください。
  - ・作業場所は、十分に明るくし、整理整頓に心がけてください。
  - ・作業所には関係者以外は近づけないでください。
- (4) 感電に注意してください。
  - ・湿気はモータなどの電気絶縁性を低下させ、感電事故のもとになります。雨中や機械内部に水や油の入りやすい場所では、使用しないでください。
  - ・損傷したコードは、感電の危険がありますので速やかに修理に出してください。
  - ・感電事故を防止するために、ゴム長靴、ゴム手袋を着用し、漏電しゃ断器の設置された電源で使用してください。
- (5) 機械の取扱い
  - ・コードを持って運んだり、コードを引っ張ってコンセントから抜かないでください。
  - ・プラグを電源に差し込む前に、スイッチが切れていることを確認してください。
  - ・電源につないだ状態で、スイッチに指を掛けて運ばないでください。
  - ・高い場所で作業する時には、下に人がいないことを確認してから行ってください。

## (6) 準備、手入れ、保管

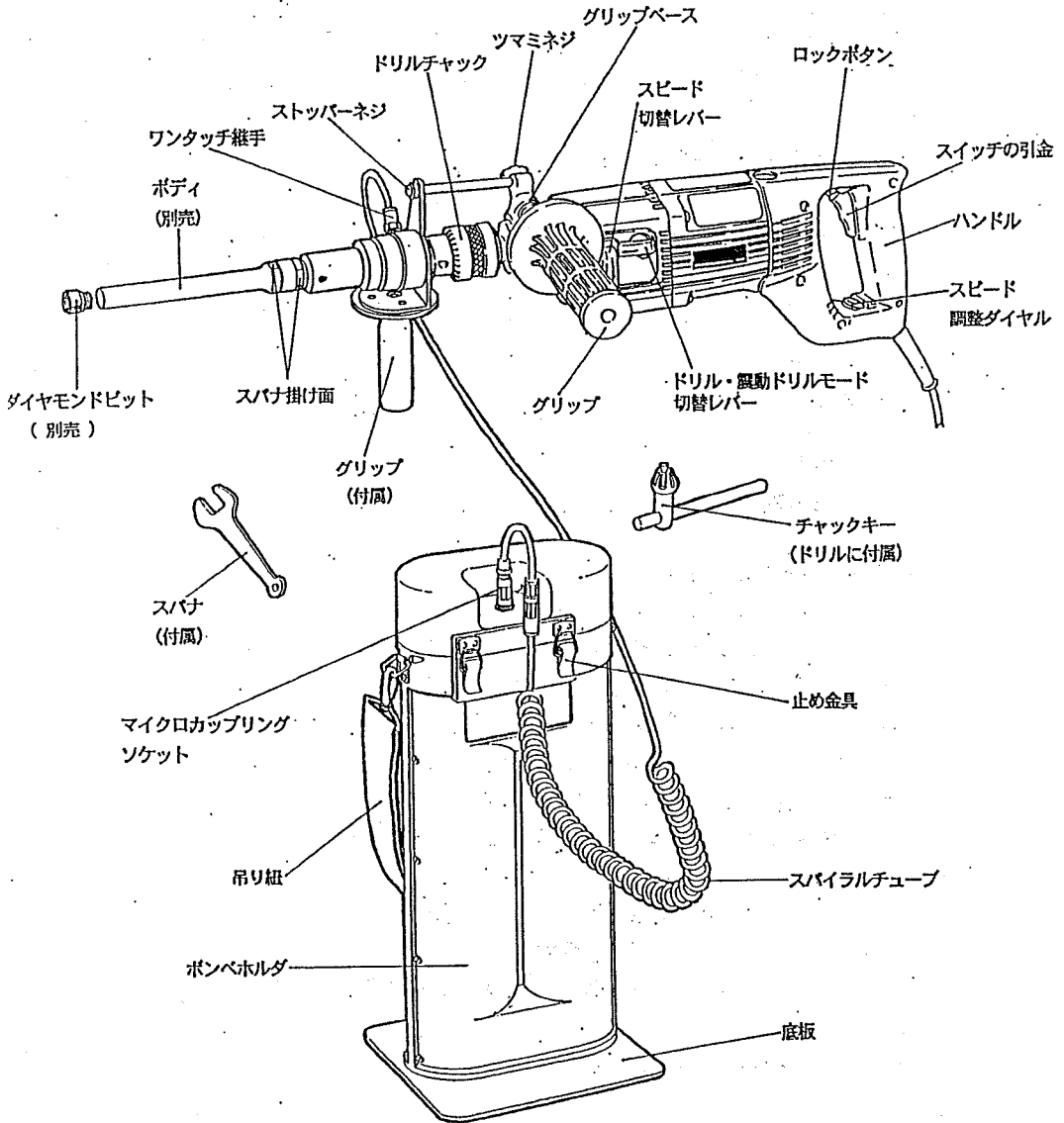
- ・機械の組立、工具類（ボディ、ダイヤモンドビット）の取付は、取扱説明書に従って確実に行ってください。
- ・作業する箇所に、電線管・水道管・ガス管などの埋設物がないことを作業前に十分確かめてください。
- ・冷却剤ボンベが空の状態で使用するとダイヤモンドビットが発熱し危険です。作業前の確認、さらに作業中にも冷却剤のでかたを監視してください。
- ・誤って落としたり、ぶつけたときは、工具類（ボディ・ダイヤモンドビット）や機体などに破損や亀裂、変形がないことを点検してください。
- ・電源コード・スパイラルチューブ・継手類は、定期的に点検し、損傷している場合は、お買い求めの販売店または弊社にお申し付けください。
- ・使用後の機械は良く手入れをし、常に最良の状態を保ってください。
- ・保管はつぎのような場所は避けて安全に保管してください。
  - \* お子様の手が届いたり、簡単に持ち出せる所。
  - \* 湿気の多い所
  - \* 温度の高い所
  - \* 直射日光の当たるところ
  - \* 揮発性物質の置いてある所

## (7) 冷却剤に関する注意事項

- ・タバコを吸いながらの作業は絶対にしないでください。
- ・ストーブやこんろなど火気の近くでは使用しないでください。
- ・屋内で大量に使用するときは、十分に換気をしてください。
- ・冷却剤は火に向けて噴射しないでください。
- ・冷却剤は人に向かって噴射しないでください。
- ・容器は、火中に投げ入れないでください。
- ・容器は完全に使いきってから、他のゴミとはっきり区別して捨ててください。
- ・容器は、直射日光をさげ風通しの良い日陰にキャップをして保管し、40℃以上になるような所には長時間保管しないでください。
- ・万一飲み込んだ場合は水を飲ませる等の処置をし、また目に入った場合は、こすらず水道水で十分洗い流してください。
- もし、異常を感じたときは医師に相談してください。

# 組立全体図および各部の名称

## アタッチメントユニット



## ポンベホルダ

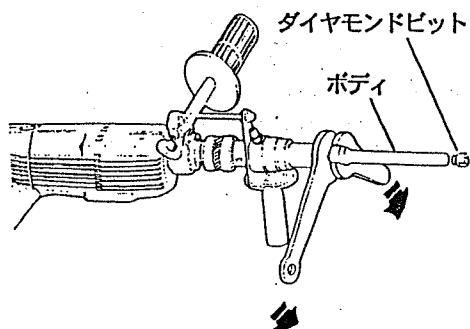
## 組立方法

アタッチメントユニットは、付属品のスパナとともにポンベホルダの中に納められています。

### (1) アタッチメントユニットとドリルとの組立

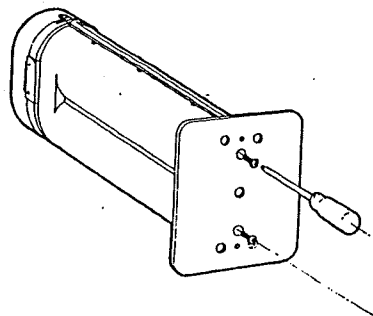
- ①ドリルチャックの3ヶ所の穴の1ヶ所にチャックキーを差し込み、左に回すとドリルチャックの先端の爪が開きます。
- ②アタッチメントユニットの回転軸をチャック爪の中に差し込むと同時に、アタッチメントユニットのストッパーをドリルのグリップベースの穴にさし込んで、チャックキーを右に回し軸を締め付けてください。この際1カ所だけでなく、3カ所を均等に締め付けてください。
- ③ドリルのグリップベースについているつまみネジを回して、ストッパーをしっかりと固定してください。
- ④アタッチメントユニットには付属のグリップを取り付ける事ができます。必用に応じてねじ込んでご使用下さい。

### (2) ボディおよびビットの取付



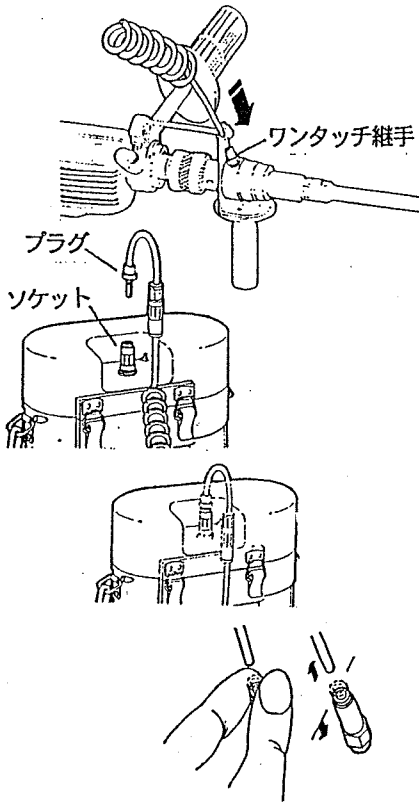
- ①自動切替弁の先端のスパナ掛け部分に付属のスパナ（幅17）を掛け、ネジ部にボディをねじ込みます。ボディの幅（ビット径により13又は17）に合ったもう1つのスパナ又はモンキーをボディに掛け、しっかりと締め上げてください。
- ②ボディの先端に径の合ったビットをねじ込みペンチなどでしっかりと固定してください。この際刃の部分に痛めないように注意してください。

### (3) ポンベホルダの組立



- ①ポンベホルダの底板を付属のネジ2本で本体にしっかりと固定してください。
- ②付属の吊り紐を側面の2カ所のフックにかけてください。

#### (4) ポンベホルダーとドリルの接合



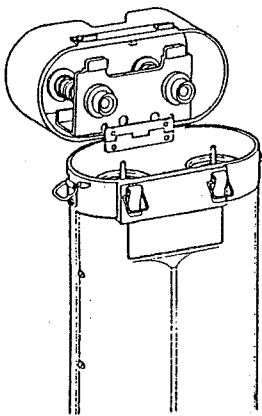
- ①自動切替弁のワンタッチ継ぎ手の外側の黒色リングを押し込みながら、スパイラルチューブを奥まで差し込みます。
- ②スパイラルチューブのもう片方のプラグをポンベホルダーのソケットにしっかりと差し込みます。

\*取り外しは下記の順序で行ってください。

- ①ポンベホルダーのソケットの外周リングを押し下げてスパイラルチューブをはずします。
- ②次に自動切替弁のワンタッチ継ぎ手の外側の黒色リングを押し込みながらスパイラルチューブを引き抜きます。

**注意** この作業は、スパイラルチューブや自動切替弁内に残っている冷却剤を刃先を押し全部抜いてから行ってください。

#### (5) ポンベホルダへの冷却剤のセット



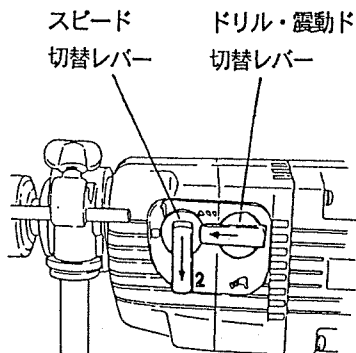
- ①ポンベホルダーの止め金具2個をはずし上蓋をひらきます。
- ②専用の冷却剤ボンベ缶を2本上から入れ込み上蓋を下げ、止め金具で固定します。


**注意** 冷却剤は必ず2本づつセットしてください。

# ドリルの操作

**ご注意** ドリル(マキタ製 8406C)には取扱説明書が添付されていますので  
ご使用前によくお読みください。

## (1) ドリル・震動ドリルモード切替レバーの操作

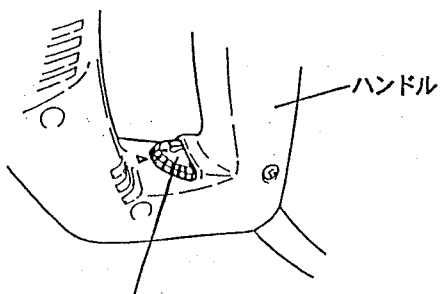


0 J-2ではドリルモード(回転のみ)で使用しますので、切替レバーを「マーク」(横向き)位置に回し確実に固定してください。

## (2) スピード切替レバーの操作

0 J-2では高速位置で使用しますので、レバーを「2」(下向き)の位置に固定してください。

## (3) スピード調整ダイヤルの操作



スピード調整ダイヤル

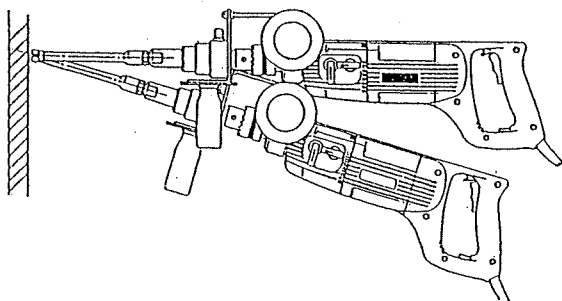
ハンドル下部にあるスピード調整ダイヤルを回すことにより、下記の範囲で自由に回転数が変わります。下表を参考にして相手の材料、ダイヤモンドビットの径にあった回転数を選択してください。硬い材料ほどまたビットの径が大きいほど回転数は遅くします。

(スピード切替レバーは [2] の位置)

スピード調整ダイヤルの数値	1	2	3	4	5	6
回転数(毎分)	1800	2200	2600	3200	3600	4000
ビット径 10.5				*	*	*
ビット径 12.5			*	*	*	*
ビット径 14.5		*	*	*	*	
ビット径 18.0	*	*	*	*		

## 使用方法

- (1) 刃先を壁面などに押し当て冷却液が噴出する事を確認してください。
- (2) ポンベホルダが転倒しないように注意してください。特に、高所で作業するときは、ポンベホルダの吊り紐を確実な場所に絡むなどし、ポンベホルダが落下するような事がないようにしてください。
- (3) ドリルのスイッチが切れていることを確認して、プラグを電源に差し込んでください。
- (4) ドリルのスイッチを入れてダイヤモンドビットを穿孔する部分に押し当ててください。冷却液は自動的に噴出します。



ダイヤモンドビットを穿孔面に斜めに当てると位置決めしやすくなります。  
面にへこみができ横滑りがなくなったらドリルを垂直に当てます。

**ご注意** 冷却液がでない状態で穿孔しますと刃先が異常に発熱し、煙がでたりダイヤモンドビットが異常に磨耗したりしますので、穴明け作業中は穴明け溝から冷却液が絶えず流れ出ていることを確認してください。

## 保守・点検

- ご注意** 点検整備の際には必ずスイッチを切り、プラグを電源から抜いてください。
- (1) ドリル部の修理はご自分でなさらないで、必ずお買い求めの販売店、または弊社にお申し付けください。
  - (2) 自動切替弁の部分は、コンクリートの切屑が付着しやすくそのまま放置しますと固まってしまうので清掃しにくくなります。作業後はなるべく早く水などで清掃してください。

販売元：株式会社 オリエンテック

〒341-0024 埼玉県三郷市三郷2-2-11 中村ビル2階

TEL. 048-952-9900 FAX. 048-952-9910

製造元：東邦金属工業 株式会社

〒132-0031 東京都江戸川区松島 4-37-6

TEL 03-3654-8911